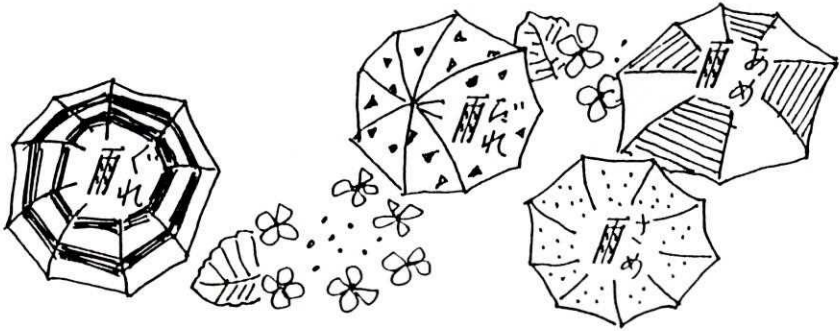




う 羽 化 が

1997年6月
第 2 号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 宗 助 悦 子



テーマ：『パソコンと入力!?!』

目 次

連載「EIBRK 漢点字変換システムについて」(2)	i(中央)
テーマ「パソコンと入力!?!」パート1	1
連載マンガ「となりのシロー君」(1)	7
連載「点字から識字までの距離」(2)	11
会員プロフィール	13
テーマ「パソコンと入力!?!」パート2	15
代表インタビュー 2	21
漢点字ってどんな字?	25

テーマ『パソコンと入力!?!』パーティー

近年の点訳作業にとって、切っても切り離せないものは、パソコンとテキストデータの入力です。当“横浜漢点字羽化の会”も例外ではありません。

入力作業はそれぞれの自宅での個人作業です。会員の皆さんがどの様なことを思いながら活動しているのでしょうか?メンバーの意外な一面が見えてくるかも知れません。

パソコン・パソコン、出番です

会員 西 淳策

パソコンに接するようになってから、これでも結構年月が経っているのです。趣味的にBASICで囲碁の画面表示プログラムを組むだけですが、何年もほっぽかしたり、思い出してまたやりだしたり、そんな程度でした。でもプロやマニアならおそらく簡単なことでも、自分でやっとうまいアルゴリズム(解法の手順)を見つけた時は、難しいパズルを解いたときのような面白さを感じていました。そういうことでワ

iproのような文章入力については、経験は極めて僅かなものでした。

昨年一月の市公報でしたか、この漢点字の講習会募集の記事に関心を持ったのは、条件の一つだった点字については全くの門外漢なれど、ただパソコンがPC98(MS-DOS)と「太郎」VER.4以上ということが、ピタリだったことと、「変換」の字句に興味をもったからでした。サラリーマンを卒業し、なんかやろうかなと考えている時でした。果たして自分が本当にできるのか、はなはだ心もとなかったので、まあ講習会に一応出てみようかなといった程度でした。ですから講習会終了と同時に自動的に「羽化の会」入会となった際は戸惑ったというのが正直なところですよ。

もともとボランティア活動に対しても、本音をいうと、あまり意識がないといった、まことに申し訳ない心構えでしたから、それこそ「牛にひかれて善光寺参り」となったわけです。それに今でもそうなんです、キーを打ち込むのに皆さんのようには、両手も殆ど使えず、ましてやブラインドタッチには、ほど遠いお恥ずかしい有り様なんです。ましてや点字のの字も知らずに入会とは、とりえは心臓だけと云われても、仕方ありませんね。まあタイピング未熟については、

速度だけの問題と開き直ってはおりませんが。

つぎに吾がパソコンに関して触れてみましょう。最近のパソコンの変遷進歩には目を瞠るものがあり、私などはとてもついていけませんね（経済的にも）。ですが幸いにも漢点字入力と変換に関する限りは前述の装備（CPUは386）で充分ですから、何代か前の、ポンコツ寸前の旧型でも結構重宝しているわけです。しかもこの本体を含めてほとんどが、秋葉原などの中古屋で買い集めたり、追加したりしたもの、また頂いたものといった、そんなものばかりです。ハードディスクも中古、使っているソフトも概ねフリーソフトといった案配。そう、このキーボードの右側のテンキーの「0」は故障で字が生まれませんが、上部に一列に並んだ数字のキーはOKなのでそのまま使っている状態。現プリンターは店閉いの中古ソフト屋で見つけた、それまで店で使っていた整理品。前のは漢字のROMがJIS第2水準なしかだったので「羽化の会」にはいつて、役に立たたなかつたところ、これがなんと第2水準付きで千円ポツキリだったので全くついていました（前のも同様旧型で部品は既になく、あつたとしても確か2万円弱！）。新品はこの会で必要になつた、3・5インチのフロッピーディスク・ドライバードけといつたところでは。

こういった旧態依然がどこまで続けられるか、やはり私とて、インターネットなどの、メディアの進展についていけないと、どんどんこの世界から、おいてきぼりになってしまうので、なんとかしなければと思つてはいるのです。それにこの窓（WINDOWS）なしの老屋も速からず寿命がくるのでしようし。えっ、ご本人の方が先？！

入会以来、すでに一年半近く経過し、メンバーの一員として、まがりながらもなんとかやってこられたのも、岡田さんを中心に、会員皆さんよい方ばかりなのと、ラツキーなことに、ハイレベルの才能を持たれた方々にも、恵まれたからだだと感じています。この刺激的で、居心地のよさは本当に得難いものだと思いますし、さらに忍び寄るボケの防止にも、断然効果あると期待している私であります。

かすみ目をこすりこすりのリターンキー

入力も入浴も真夜中です

会員 菊川登志子

昼間はやらなければならぬ事や、やりたい事が沢山ある。

週に3日は仕事を持っているし、休みの日の昼間は、掃除 洗濯 買い物等でほとんどつぶれる。今は春だし土いじりもしたい。他にもいろいろたくさん趣味の時間を持っている。でも、外に出てやることや音のたつことなどは昼間か家族の皆が起きている時間しかできない。

したがって私の入力タイムは夜中である。皆が寝る頃から始める。じつと座ったままの仕事だし、音もたたないから、夜中の仕事にするにはちょうどいい。

私の性格は、原稿を預かるといつまでも持っているのはいやなのである。さつさと終えたいのである。そうしないと安心して心が遊ばない。

だいたい2時頃まで打つ。調子にのって3時を過ぎることもよくあるが、朝の目覚まし時計は6時半に鳴るので、このくらいの時間が限度かと思う。

睡眠時間が短くてたいへんそうと、ひとには言われるけれど、でも、私は無心になってキーボードをたたく

静かなこの時間がとても好きなのだ。

それから、音を立てないように気をつけて、お風呂に入る。

お風呂の間にまた目が冴えてくる。もう少し打てそうなのがするが、

がまん、がまん寝る。

身体は、毎日の愛犬の散歩の時にきたえる。犬は道草ばかりする。

それを待つ間にストレッチをするのである。それから、自転車で走り回る。

自分で考えて、これはききそうと思うことをする。それから、自転車で走る。

そのせいか腰痛も肩こりもない。丈夫で優等生の身体なのである。

元気の元は、なんとと言ってもよく食べること。食事は、食べるときはもちろん、作ることも大好き。

そうして、私は今日も頑張る！ 頑張る！！

ん？ パソコンでボランティア？ ホント？

会員 T S U B A N A

「パソコンでボランティアが出来るなんて夢のようです…」と、市の広報を見てすぐに応募しました。

パソコンと時間さえあれば誰にでも出来るものと思ったのです。別に年齢制限はありませんでした。

そう言えば初めて会から電話を頂いた時、「皆さん半分プロのような方たちですからねえ」と、私が点字のことはなにも解らないのですが…と申し上げましたら、少し心配そうなお答えでしたっけ。私も少しだけ心配になりましたけれど、でも、教えていただけますでしょうか？と、ボランティアが出来るという喜びの方が大きくて初の講習会をわくわくしながら待ったのでした。

初めての会。ほんと、皆さん、「かな点訳は知っています」「ワープロで仕事をしていました」と、そんな方ばかりのようでした。でも、漢点字というものは、すごい、世の中にこんな素晴らしいものがあつたなんて、と感動さえ覚えました。難しそう！でもすぐに覚えなくても良いのでしょうか？。難しそうだけれどもなんだか面白そう。ぜひ、私も参加したいと思いました。

そして、パソコンの方も私に取っては大問題でした。我が家のパソコンは丁度一年ほど前に、年取って外出できなくなったら、パソコン通信でも楽しみたいよね、と買ったものでした。入門編からぼつぼつと右人差し指で…とやっていたところでした。一太郎も次々とバージョンアップで覚えるひまなど勿論なく、という状態でした。

その初めての会で使われていたのは、ノート型で、マウスなどはどこにもなく、いろいろ受けた説明は何がなんだかさっぱり解らなくて、私には無理なのか、といささかしゅん とさせられました。けれども、漢点字のいろいろな約束ごととか宿題の校正の仕方などは、割合に身近なものに思えて絶望しなくてすみしかったです。よかったです…。

そして、「朝日歌壇俳壇」に挑戦することに。私の場合は現時点では墨字だけ。そう、その墨字という言葉も解らなくて、でも墨字に対する語は点字と知って納得しました。

一年前の今頃、四月、五月。私はフロッピーディスクの使い方も知らなかった、テキストスタイルで、という意味も知らなかった、のです。

いろいろ、一から教わりました。特に校正で組んでいたYさんにはすっかりお世話になりました。

手とり足とりで教わりました。自分に何が解らないのか解らないのです。ですからどう質問したら良いのか解らない。こうしようとしたら、パソコンの画面にこんな言葉が出てきたけれど、これはどういうこと？とメモしたものを例会で会ったとき、また電話でYさんに聞きます。Yさんのご主人様は、超ビギナーズの私の為に何度も夕食後の貴重なお時間を割いてくださいました。

漢点字も、パソコンも、私は今、やつと入り口にさしかかったところでしょいか。「羽化の会」のみなさま、これからもどうぞよろしくおねがいます。

実は今、今度はパソコン通信に挑戦しているところなのです。思ったよりずっと難しく少しばかり嫌になっていくところです。何人かの方に教えていただいでは居るのです。簡単ですよ、と皆さんおっしゃるのですが……。ほんとうはこの原稿、「うか」を編集される宗助さんに、ぼん！とEメールで送って驚かせてあげたかったのです。うーん残念！。

「コンピュータ雑感」

会員 木下 和久

何万本かの真空管を使って、大きな部屋一杯を占領する「電子計算機」が東大に設置されたという記事を新聞か何かで読んだのは、学生時代のことだったと思います。一度見てみたいとは思っても、とうとう見ずじまいでしたが……。四十年以上前の話です。

それから十年ほどして、会社にもIBM製の大型コンピュータが導入され、それを扱う専門部署の人が、そこだけ特別にエアコンの効いた専用の部屋で、運転していました。たまに特別の許可を得て見学することはあっても、自分でそれを使うなんてことは、夢のようなことでした。

一方で、個人で扱える小型のコンピュータは、電子式卓上計算機としてこの世に誕生しました。初めてそれを目にした時の感激はとても大きなものでした。しかし、それは個人で簡単に購入できるような代物ではありません。会社で、どうやってそれを購入する予算を獲得するか、苦心したものです。しかし、その性能たるや加減乗除の計算がすばやくできる他には、プログラム化した計算式を自動的に計算してくれるという

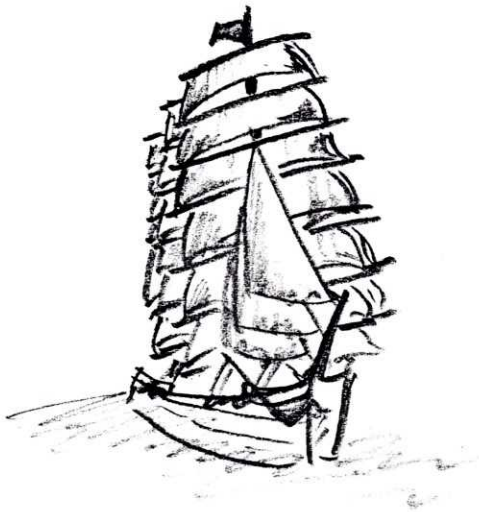
だけの、コンピュータとしてはそれほど性能があったわけではないのに、その大きさは今の大型のパソコンほどもありました。これが、いつの間にかポケットにはいる大きさの、誰でも気軽に買える値段の電卓に進化しました。

大型コンピュータのほうは何年かたつと、これを離れた部屋から端末機を使って、自分で作ったプログラムで計算することができるようになりました。ただ、これは共同利用ですから、プログラムを送つても、自分の番がくるまで結果が出るのを待たなくてはなりません。正味の計算時間はほんの数分なのに、結果が出るのに何時間も待たされたものです。さすがにIBMの高性能なコンピュータだけあって、計算速度はものすごく速いのですが、何しろ高価なもので、その使用料は一分間二千円もしました。

そのころ、マイコンと呼ばれていたマイクロコンピュータが世に出ていました。プログラムは、いわゆるベシックと呼ばれる言語で書きます。試しに大型コンピュータ用のプログラムを、ベシックで作つてマイコンで計算させてみたら、一週間でも終わらないくらい遅いものでした。

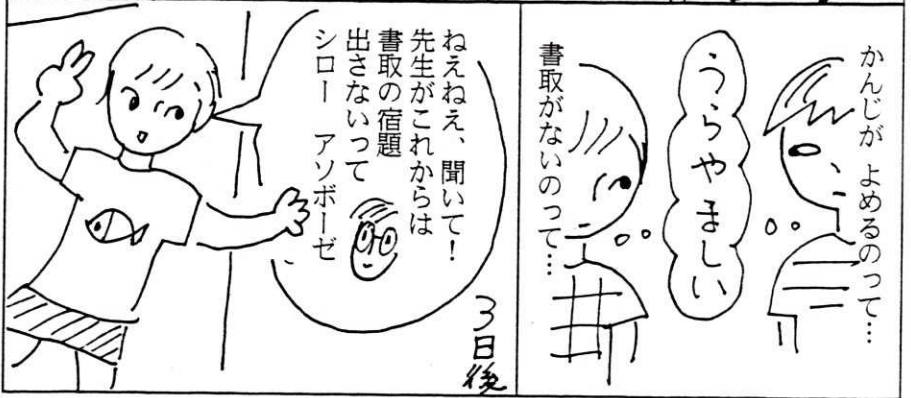
今では、マイコンはパソコンと呼ばれるようになり、二十年前のマイコンの計算速度の百倍以上も速く動く

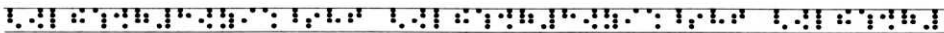
ようになりました。私の机の上には、一七インチのディスプレイをつけたPC9821-Xa7が、Windows95で動いています。画面の切り替えはマウス一つで簡単にできてしまいます。最近、PDという光磁気ディスクのドライブもつけました。これはディスク一枚で六五〇MBという大容量のもので、二十年前には想像もできなかった、これらの技術の進歩に、ただただ驚くばかりで、そういう世の中に生きて、それが自由に使える境遇にあることの有難味をしみじみと感じるこのころです。



とよりのシロー君 (1)

カタカナから始める





カタカナの工はね
よ → たて → よ

工場や工作の工と
同じ形よ

もとの漢字は
江戸時代なんかの
江の左の部分
だからエの音

江戸




ほんと？
それならかたかな
やろーかな！

それじゃカタカナ
教えてあげる

漢字と同じ
形のものがあるから
それから教えて
あげるわね



そ っ く り さ ん  一 覧

カタカナ	同じ形の漢字	もとになった漢字
エ	工 (ㄣ → ㄣ)	江 (ㄣ)
カ	カ (ㄎ → ㄎ)	加 (ㄎ)
タ	タ (ㄊ → ㄊ)	多 (ㄊ)
チ	千 (ㄑ → ㄑ)	千 (ㄑ)
ニ	二 (ㄥ → ㄥ)	仁 (ㄥ)
ヌ	又 (ㄨ → ㄨ)	奴 (ㄨ)
ハ	八 (ㄆ → ㄆ)	八 (ㄆ)
ロ	口 (ㄎ → ㄎ)	呂 (ㄎ)

そう、カタカナって
おもしろいんだ
漢字の書き方を
説明するのに
カタカナを使って
説明することが
多いのよ



カタカナ全部
おぼえたんだって？

そうよ
シロー君
すつごく
早いんだから

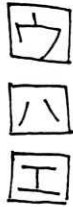
そんなこと
ないけど
へえってこと
おおかっただな



おなじかたちの
 じがあることわ
 わかったけど
 ぞんなふーに
 せつめいする
 んですか



たとえば
 『空』という字は
 ウ・ハ・エ
 カタカナを縦に
 並べた形なの



もつとちゃんという
 『空』の上の部分は
 『穴』という字で
 「穴かんむりにエ」
 と説明します
 でもこの『穴』は
 「ウかんむりにハ」
 でもあるのよ



穴かんむり

こんなふうに
 漢字は部分部分を
 細かく分けることができ
 カタカナや漢字の数字の形を
 使うことが多いの

お天氣の『氣』なんかだったら
 「ノ・一・一・一」
 右角下の部分を
 右にまるくしたものを
 「あひる」って
 呼んでるけど
 その中に「メ」
 というように言うの



ニが「まえ」

へえ、かんじのかたちを
 ちいさくわけたものに
 ちゃんとなまえが
 ついてるんだ

それにカタカナの
 かたちがたくさん
 つかわれてるんだね



そう
 そのところがわかると
 漢字がおもしろくなるわよ
 そしてね、漢点字というのは
 この漢字の形と対応して
 いるの



それじゃ かんじを
 おぼえながら
 かんてんじを
 べんきょーするのわ
 そんなに むずかしく
 ないんですか？

いえ、漢字を勉強しながら
 漢点字の勉強をした方が
 かえって理解しやすいん
 じゃないかしら

画の名前や部首の
 名前をおぼえると
 漢点字の仕組みも
 よくわかると思うわ



連載 点字から識字までの距離 (二)

山内薫 (墨田区立緑園書館)

「トツキワ セイシン コンパク シンイ シシ
チリヨヨリ ショーズ」

これは漢方の古典『鍼灸甲乙経』の一節である。この『うか』創刊号、31ページに載っている活動実績及び活動計画の専門書籍の漢点訳書の中にも『東洋医学概論ノート』があつたように、鍼灸を生業としている視覚障害者で、それらの古典を学んでいる人も多い。

しかし、これらの古典の点訳書や録音図書では、従来漢文訓読の読み下し文を冒頭のように音声化しているに過ぎないので、ある利用者の言によれば、お経を聞いているようなものだと言う。そこで、そうした資料を提供すべき図書館として、点訳者と音訳者を対象にして「古医書を読むための講習会」を開催し、様々な音声化の方法を試みてきた。テキストに使用したのは台湾で翻刻された中国最古の医書といわれる『黄帝内经素問』で、まず巻頭「上古天真論篇第一」の「昔在黄帝、生而神靈、弱而能言、幼而徇齊、長而敦敏、成而登天」を市販の点字図書や録音図書は「ムカシ、コウテイ、ウマレナガラニ シテ シンレイ、ワカク シテ ヨク イイ、オサナク シテ ジュンサイ、チョウジテ トンビン、ナリテ トウテン

ス。」と、音声化している。これは、正しい音声化には違いないけれども、個々の言葉に何の説明もないので、音声化だけで理解しようとするのは、非常に困難だと思われる。中には原本の漢字の配列順に読んで欲しいという要望もあり、別の読み下し分のテキストを使って次のように読んだテープも作成したことがある。「ムカシ、アリ、コウ、テイ、ウマレタマ、イテ、シン、レイ、イトケナク、シテ、ヨク、ノタマイ、オサナク、シテ、ジュン、セイ、ヒトト、ナリテ、トン、ビン、ナリテ、トウ、テン、シタモウ。」

この二つの訓読を比較しても、訓読そのものに解釈が相当入ってることがおわかりいただけだと思う。結局いかに客観的にテキストを音声化するかという課題を講習会で探った一つの方法が、この素問が成立した頃に成立した漢の時代の辞書『説文解字』等を使いながら、徹底的に文字を説明していく方法だった。

同じ『黄帝内经素問』の第5篇「陰陽應象大論篇」のはじめの部分「黄帝曰 陰陽者天地之道也 萬物之綱紀 變化之父母 生殺之本始 神明之府也 治病必求於本。」のたとえば「萬物之綱紀」の部分の説明を講習会の講師は次のように訓注した。

「朗読者注。綱紀の綱という字は、糸偏を書いて、旁は岡という字を書きます。説文では「綱は罔紘(ぼ

うこう)也。糸に従う。10部」説文終わり。罔という字は罔(あみがしら)を書きます。紘という字は、糸偏を書いて、旁はカタカナのナという字を書いて右下にカタカナのムという字を書きます。おおずなという字はこの字を書きます。萬物之綱紀の紀は説文では「紀は糸を別かつ也。糸に従う。1部」説文終わり。糸を別かつ也の糸という字は、糸偏を書いて、旁も糸という字を書きます。萬物之綱紀也の紀は韻は之部。之部の之は、ひらがなの「え」という字に似た字を書きます。朗読者注終わり。」

こうした形で、読み下し文でおよそ5行くらい原文を音声化するのにほぼ1時間半を費やした。受講生の中には「こうした注を入れても結局利用者には理解されないのではないか」という疑問も出されたが、それに対して講師は「すぐには理解できないかもしれないが、こうした試みは不可欠のことであり、真剣に医古文を勉強しようという意欲があればきつと役に立つ。学問の範囲で分かっていることは極力注として入れて欲しい。音韻や古辞書、注釈書の校勘を注として入れるのは学問の世界の問題で、そこまでいって初めて同じスタートラインに立てるので、是非詳しい注を入れて欲しい。それを臨床でどう生かすかということは何人の問題である。」と話された。

これは、多くの可能性の中の一つの試みにすぎないけれども、一つはテキストをいかに客観的に、しかも理解の手がかりをできるだけ多く含ませて提供できるかという図書館の課題だと考えている。「識字」は文字どおり「字を識る」ことで、「識」の古訓には「サトル、ココロ、タマシヒ」などの読みもあるように、漢字というものをいかに音声化するかというのは音訳・点訳の永遠の課題だろう。

ところで、この講習会を開催したのは、まだ岡田さんと知り合う前で、漢点字が存在することは知っていたけれど、この分野での漢点字の可能性についてはよく理解できていなかったことをつけ加えておきたい。現在ならば、点字の触読が可能な人にはまず漢点字を修得することを進めるだろう。と同時にかなり漢字に近い漢点字でも、点というもので表す以上、図形としての漢字とは等価にならない部分があると言うことも肝に銘じておかなければならないのではないかと思う。『漢字源』の漢点字版完成はとても大きな意味のある事業だが、その他の多くの辞書が漢点字ではまだ読めない現実も頭の隅にしつかり入れておかなければならないだろう。

さて、冒頭の音声訳した文字は「徳氣は精神魂魄心意思知慮より生ず」です。

氏名（愛称）	嶋田 夏江（かめのこ）
住所（市町村名）	栄区笠間（ほとんど鎌倉市大船）
出身地	福岡県北九州市門司区
学歴・職歴	高卒、地元某自然派化粧品会社にパートとして勤務、たまにワープロ入力の内職。
家族構成	夫、双子の娘、息子の五人家族
幼少時の思い出	近所に避暑？に来ていた外国人の男の子の言っていることが分からず、とてもくやしい思いをした。
本にまつわる思い出	家にあった古い（定価が一円）宮本武蔵を夢中で読んだ。
漢点字って…	漢字が好きで、良さ素晴らしさを実感していますので、点字の世界でも多くの人に知ってもらいたいと思います。
何か一言	趣味は ハイキング、映画鑑賞他 なんでもやりたがり屋です。

氏名（愛称）	山口 憲子
住所（市町村名）	横浜市港南区
出身地	山口県
学歴・職歴	主婦歴 四捨五入で30年
家族構成	
幼少時の思い出	
本にまつわる思い出	
漢点字って…	これを指の先で読めるなんて驚きです。
何か一言	これなら私にもできるかもしれないと始めてはみたものの、点、点の芸術と（なんのこっちゃ？）のコンピューター用語に悩まされています。どうぞ気の長いお付き合いをお願いします。

氏名 (愛称)	元木 裕子
住所 (市町村名)	大和市下鶴間
出身地	満州新京市生まれ、父の仕事の関係で転々。 現在の前は東京・世田谷
学歴・職歴	桑沢デザイン研究所。昔は企業の広報課で 仕事していましたが… (大昔の話)
家族構成	夫と長男と現在は3人 (この春次男が社会 人となり、関西に参りましたので)
幼少時の思い出	小学校の頃、何の娯楽もない時代でした から、本を読んで主人公になり切った「ご っこあそび」に夢中でした。
本にまつわる思い出	長男 (27才) が幼稚園の時から20年余 り細々と文庫活動を続けている為、今でも ホントにすばらしい児童書は大好き!!
漢点字って…	普通の点字は表音文字のため、録音ではあ る程度発音で区別出来る単語も点字では同 音のものは前後の文章から判断するしか ない場合もあり、点訳者の立場からも、こ れで本当に正確に伝わるのだろうかと思 うこともしばしばでした。その点漢点字は 視覚障害の人も、そうでない人も同じ感 覚で日本語に取り組める、同じ理解につ ながるすばらしいものと思います。覚え ることは難しく大変なのですが、時間 はかかって必ず普及してゆくものと信 じています。

何か一言

「何事も為せば成る」諦めないで、挑戦する心を学びました。宿題ではひさしぶりに、色あせた、青春のひとこまを味わいました。

今回は字典だけに、取り決め事も多く、みなさん、左脳をフル回転させて、とり組んでいるようです。でも、ひとこと、「楽しい」と……

これからは、強い味方、吉田さんに、支えられ、うさぎ一家は、うんと楽しみながら、そして、ちよっぴり、お役に立てればと、虫のいいことを、つぶやいています。

みなさんとの出会いを求めなければ、カナ点字も、漢点字も、ましてや、こわーいパソコンなど、手の届かない、遠い世界の出来事だったと思います。これからも、どうぞよろしく……。



めでたく一年たちました

矢島 万里子

それはちょうど去年の春、カルチャーセンターが終わったあとの、ティータイムでのくつろいだひとときのことでした。

「ねえねえ、漢点字ってものがあるらしいわよ。とてもいいものらしいから、習ってみない？ 教えてくれる所もみつけたのよ。」

「なにに、漢点字?! それってどんなの?」

「良くは知らないんだけどね、8点でできててね、云々: それに、ほとんど教材費だけでいいんだって。」

「えっ! それって? タダ? ってこと!!」

あれもこれもと好奇心はあるけれど、安くはない授業料に頭を悩ませていた私は、ついうっかり瞳を輝かせてしまったのでした。すかさず

「あなたもいらつしやいね。じゃあ、いついつ午前
一〇時に、緑図書館に集合ね。」

「ハイ」

こうして月二回程、"バイトに行く時間よりも早い"なんてプチプチ言いながら、私ははるばる両国まで通

テーマ 『パソコンと入力!?』パート2

以下のお二人は、昨年、墨田区の緑図書館を会場にして行なった、ボランティアを対象にした漢点字の講習会にご参加いただきました。

現在はそれに引き続いて、緑図書館で活動して下さいておられます。

はじめまして

境 美也子

平成三年度、船橋市市民大学パソコン点訳講座を卒業した七人が、名付け親になって、うまれた「グループうさぎ」。肝っ玉母さんうさぎの吉田さんを中心に待望のおじさんうさぎ四人も加わって、ただいま二十七人の大家族です。内外の児童書八十冊を点訳、最近では、インターネットなんて言葉もとびかうようになり、夢がほんの少しずつ現実になっていくようです。さて、わがリーダー（失礼ながら最年長）吉田さんは、点訳はもちろんのこと、パソコンに関してはめっぽう強く、とにかく半端ではないのです。パソコン用

語すらチンプンカンプン、ましてや操作など、とてもとても……リーダーの説明をフンフンと聞いてはいますが、わかったふりで一応すませています。「漢点字にかかわってゆかれるなら、ハードに組みこまれたら？」インストールにはMS-DOSが必要だとか？ちよつと、通になつた気分で秋葉原へ勇んでかけました。機種は？CPUは？メモリーは？うん？なあんにも知らない……ではお売りするわけにはゆきません。出直してください。なんと冷たい言葉！まあ苦勞の甲斐あつて、なんとか一太郎まではハードに引越してくれたものの、かんじんのエーブルKはいまだにフロッピーの中……

現在、用事用語字典をワープロに精通の十一人の仲間点訳中ですが、私はいとうと、ひとさし指二本で間に合うのです。とりあえず、まとめ役に徹することにしませう。

こわいものみたさに覗いてみた漢点字の世界……それは、ある日の読売新聞の記事でした。岡田先生を囲んで、みどり図書館での勉強会では、ただなんとなく、あたりまえに、読んでいた字を、少しずつ崩してゆくと、字の生い立ちが見えてくるのです。また、先生が机の上に、指で漢字を書かれるので、びっくり、

うことになったのでした。

こんな情けないほど不純な動機で始めた私ですが、きつかけはどうであれ、めでたく一年たちました。

漢点字の基本的構造を習うことから始めて、実際の点訳作業にはいったのが十月頃。現在一冊目をしあげようと、みんなで試行錯誤の真つ最中。あれよあれよという間に月日ばかりが流れ去り、点訳を依頼された方のその首は、きつとキリンを通り越し、いまやろくろ首と肩を並べるに至つたに違いない。と、ただただ申し訳なく思っている今日この頃です。

まだまだ駆け出しの私ですから、漢点訳の本当の難しさなど体験しておらず、いろいろ大変なこともあるのでしようが、とりあえずこれまでやってきて思つたことは

① “流れるような文章を味わう” などということはそつちのけにして、マスあけなるものでブツブツと文章を切りまくるカナ点字—これじゃあ、さあ召し上がれと出されたスパゲツティを、フォークで切りながらマカロニであるかのごとくたべるようなものだ—と違い、そのままの文章を伝えることができる。

② 漢字の構造を学びさえすれば、点訳者注などいれなくても同音異義語を判断できる。

③ 点訳時に於いては、はじめにきちんとした取り決

めさえ行つていれば、カナ点字ほどよいな神経を使わなくてすむ。

以上”なあくんで便利なんでしょう。”という事です。こんなに優れた漢点字を少しでも多くの方に知つて、かつ利用していただきたいものだと思いますが、今まで点字と言えばカナ点字しか知らなかつた方が、いきなりこんなにたくさん漢点字を覚えるということは、至難の技なのでしよう、読める方は少ないと聞きます。小学校から順を追つて覚えてゆけば、私のように多少暗記力に難がある者でも、こうして大抵の漢字は読めるし、立派に(?!?) 日本文学科だつて卒業できてしまうのです。そう考えると、やはり、小学校で漢点字を覚えるということがあたりまえの制度になることが、一番だと思ひます。まだまだそこへたどりつく迄には時間がかかると思ひますが、そんなつた時 “こんなにたくさん漢点字本を作つてくれた人達がいるんだ、ありがとう。”なんて言われる日が来るかもしれない、そうなつたらうれしいな、などと思ひつつ、これからも非力ながらもコツコツと続けてゆこうと思つています。皆様どうぞ宜しくお願い致します。

片手運転

無名子

「さく太」と言うおとこがいる。「さく太」とはパソコン通信でのハンドルである。「さく太」のいわれについては他日に譲るとして、彼は他人には内緒にしているが左半身不随である。なんでも若い頃ふとした病気がもとで不自由な身になったのだそうだ。ところが彼はパソコンをこなしている。こなすといっても右手で雨垂れ式にポツリポツリとキーボードをやつとこさ叩いているといった具合で、気の速くなるような話だがしかし彼は慌てず騒がず丹念にキーボードを叩きつけている。

片手運転も単に文字キーの場合はよいとして、弱るのは左端に鎮座します CTRL キーと右に構えている XFER キーを同時に押さねばならぬ時はコトだ。この時は左のキーを文鎮などで一旦押さえつけておいて、おもむろに右のキーを押したところで左の文鎮をはずすという高等(?)な芸当が必要になる。

SHIFT キーの場合でも似たようなことにでくわす。さく太は普てさる知人の紹介で新横浜のリハビリセ

ンターを訪ねこの不便の解消のための補助具を考案して貰い暫くは一応便利していたが、そのうち壊れてしまったが、よくしたもので左手も何とか使えるようになったらしい。

さく太はこの頃漢点字とかいう会に首を突っ込んでいるそうだ。

今日も彼は相変わらずシコシコと片手運転でキーボードを叩いている。

がんばれ「さく太」



楽しく快適に…

会員 宗助 悦子

昔は、職場でも5人に1台くらいしかパソコンがありませんでしたが、今日ではパソコンが一般家庭に普及し、今や一家に一台、一人に一台という時代になりました。また WINDOWS の登場によって、素人でも使いやすくなりました。

私も、長年愛用していた NEC98 を EIBRK 専用にして、一昨年に DOSV 機を購入しました。トラブルが多いのは難点ですが、入力程度は問題なく(?) 便利に使っています。

さて、ここで少しだけ入力専門に仕事をしている人の入力方法をご紹介します。想像するだけで疲れる世界です。

仕事で入力をする場合は、時間が限られていますから、入力時に間違えた事が分かって、一々修正しないでとにかく入力してしまします。英文等のアルファベットなどは、日本語のように変換しないので、画面もキーボードも見ないでただひたすら原稿とにらめっこです。一秒間に三〜五文字を入力しますから、原稿

を読んではいけません。原稿の文字をそのまま指の動きと連動させます。テンキー(キーボードの一番右の数字だけの部分)などは壊れんばかりの勢いで打っているそうです。入力専門のお仕事をなさっている方はさぞ疲れることでしょう。

そのためか、入力者は一時間毎に最低十分は休憩を取らなければいけないことになっています。

幸いな事に羽化の会は入力の時を競う訳ではありませんので、気持ちはずですが、この休憩の取り方については、ぜひ実行してみてください。なにしろ、目は疲れるし、腕も肩も凝ってくるし、電磁波はたくさん出ているし、長くパソコンに向かっていて良いことはありませんから。

もう一つ気を付けたいのはパソコンの置いてある状態です。最近やつと、入力時の姿勢や机と椅子の関係について職場などでも理解を得られてきました。が、まだまだ、昔ながらの事務机と椅子でパソコンに向かっている職場もあるようです。皆さんのご家庭ではいかがですか? 専用のパソコンデスクと OA チェアがベストですが、家庭ではそれもなかなか叶いません。せめてクッション等で調節して、キーボードに手を置いたとき、肘と手首が水平になるようにした方が良いでしょう。ついでに、背筋も伸ばせるように椅子の背も

たれを工夫すると、入力する時、或いは入力した後の疲れ方が全然違います。試してみてください。

更に疲れるのは、入力の手チェックです。最近のワープロソフトには文章の校正まで出来る機能が付いていますが、自分で書いた文章の校正は出来ても、当会のような書籍や辞典等、原稿の入力チェックには利用することができません。やはり、目で一字一句をチェックすることができません。似たような漢字が結構あるの

で、本当に疲れます。

さて、専門家はどのようにしているのでしょうか？
ずつと昔、コンピュータで日本語の処理が出来ず、英数文字しか無かった頃は、キーパンチャー二人が同じデータを入力して、それを機械にかけて入力ミスをチェックしていたそうです。気の速くなる話ですよ。ね？きつと入力速度が速いから出来るのでしょうか。現在は、紙に打ち出したものを私たちと同じようにチェックしています。チェックするときは、修正するとき

また、入力の仕事の場合は、原則的に原本通りに入力しますので、原本に間違いがあってもそのままです。原本も人間が作ったものですから、誤植があります。私たち羽化の会で点訳した書籍はそのような誤植も訂正してユーザーに送り出したいものです。

私はいつも、1時間位で耳障りにならない程度の音楽CDをかけながら入力をします。そうすると、休憩の目安もとれますし、リラククスして入力できます。

そして、休憩の時にコーヒーかハーブティーを一杯。なかなか、思った通りに休憩が取れないのが現状です。が：

これからずつとパソコンとのお付き合いが続きま

☆ ☆ ☆

す。皆さんも快適に楽しく付き合ってください。
今後、入力に便利な方法、休息時の楽しいアイデア等の原稿を募集しますので、よろしく願います！

代表インタビュー 2

前号に引き続き、本会の代表の岡田に話を聞きます。

編集部 前号では、漢点字を“読む”ことのお勧めというところでお話が終わったように思います。漢点字版の『漢字源』

の意義をも含めて、これに付け加えたいことがございましたら、そこから始めて下さい。

岡田 はい、前号の最後は、一寸舌足らずに終わったように思います。漢点字版の『漢字源』の必要性

は、ことさら強調すべくもないように思います。

が、私も視覚障害者は、触読文字である『点

字』を、もう少し大事にしなければいけないと感じております。そのことについて、お話しさせて

いただきます。

編集 触読文字としての『点字』をもっと大事にですか？

岡 はい、近年、『点字』を触読できる視覚障害者の

数が大変少なくなっています。その原因を挙げる

のは比較的易しいと思うのですが、最も大きな要

因は、安価なカセットテープの普及に伴って音訳

が一般化したことだと思っております。『点字』とい

う触覚に訴える文字を触読するという困難さに加

編集

えて、“文字”を使わない読書（？）の出現が誘因となっているのではないかと思います。

しかも従来の点字には漢字も、ひらがな、カタカナのくべつもない。そのことが点字離れに拍車をかけているのでしょうか？

岡 そうだと思います。

編集 従来の点字を触読するよりも、音訳されたテープを聞く方が、

理解できるというのでしょうか？それは極論に思うのですが？

岡 いいえ、そういうことも言い得るのではないでしょう

か。といいますのは、“聴読”というのは、

発語された音声言語を聴覚でキャッチして解釈し

理解することです。すなわち、“聴読”するとい

う行為は、発語者（この場合は音訳者）が活字書

の著者に先き立って読者にその言葉を伝えるので

す。

そうしますと、発語者である音訳者は、原著者の文字言葉を、

自身の言葉に置き換えて、しかも音声の言葉にして伝えて来る

岡 そうですね。

そういう順序になるのだと思います。ですから、

おのずと文字を“読む”というのは違って来ま

す。しかも、既に解釈された言葉として、聞いて分かるような言葉として、耳に入ってくるのです。

比喩的に言えば、雛鳥が親鳥から餌をもらうように、半ば消化された言葉として受け取っているのではないでしょうか。

編 そうしますと、従来の『点字』では読み取れないものも、テープを「聞く」ことで理解できる訳ですね。

岡 そのように考えられます。

編 それでは『漢点字』はどうなのでしょう？文章の理解に関しては、音訳より優れているとお考えでしょうか？

岡 音訳を総て否定しなければならぬとは思いません。私自身、多くの読書を音訳で行っております。しかし、半ば消化された言葉に対する違和感は拭い切れませんし、『文字』を読むことでなければ分からない文字表現、それどころか、文字表現でありながら理解されることを拒むような表現も多く存在します。先ほど申しました「触読文字」としての『点字』を、「我が文字」として大事にしたいという意味は、そこにあります。

編 私たち健常者に見えますと、『文字』は「視覚」に訴えるもの、という観念を強く持っておりますが？

岡 視覚を持たない者にとっての『文字』、ここのごころを再確認する必要があると言いたい訳です。

編 それでは、一般の社会では、視覚障害者と『点字』との関係をごどのように受け止められているのでしょうか？

岡 はい、一般の社会（健常者の社会）では、視覚障害者が『点字』で本を読むということとはご存じでも、それに『漢字』がないことまでご存じの方は、

極めて少ないのです。大多数の人びとは、視覚障害者も学校を出ているのだから、当然漢字を身に付けて社会に出て来たのだと思っておられます。そのことで何かエピソードがありますか？

編 世の中では、皆さんが思っておられるよりずっと多く、会話の中に文字の話が出て参ります。文字を媒介にすることで、会話が成り立っていると言ってもよいほどのことです。現在の私は、他者との対話の際、分かり易く話をしたいたいと思えます、今口にしようとする言葉が、文字ではどんな字になるのか考えたりします。そういうことは、言わば日常茶飯に行なわれているものと思うのです。なるほど。つまり、『漢点字』を知る前は、そのようにしておられなかったということですか？

岡 そうです。そのような食い違いの例として、大変面白く思った経験があります。これまで点字の世界には「漢和辞典」は必要なかった、というお話をしたことがあります。相手の方は、大変驚かれたのです。日本人であって『漢字』を使わない（使えない）者のいることに、現実感をお持ちに

なられなかったのだと思います。『漢字』を使っている者にとつて、「漢和辞典」は何の役にもたない、ということに思い至らなかつたものと思われます。

編 なるほど、「漢和辞典」は、文字を使うときに、欠くことのできないものですから、常識的には、直ちに受け入れられることではなかつたのでしょうか。

岡 しかし、ここで考えなければいけないことは、一般の社会からはこのような評価が下されていることを、視覚障害者の側から、逆にどのように評価するか、ということですか。

編 つまり、視覚障害者の皆さんが、実際には『漢字』を習得する機会を持てなかつたということですか？

岡 そうです。そのことをもつと前面に出して、自らも見据える必要があるのではないかとということですか。

編 もつと具体的に話して下さい。

岡 確かに、現在までの視覚障害者の置かれている状況は、ある意味では受け身ではありません。視力を失っているがために自らの『文字』を持ってないでいることは事実です。川上先生が『漢点字』を世に送り出して下さるまでは、その機会は全く閉ざされていたのですから。

編 『漢点字』は、どのように勉強するのですか？

岡 一般には、日本漢点字協会の通信教育で習得することになります。

編 公的な機関では勉強できないのですか？

岡 まだ公的には取り上げられておりません。

編 この横浜では、それでも徐々に関心を示して下さるようになって来たのではないのでしょうか。

岡 この度、横浜市中央図書館で『漢字源』を設置していただきましたし、これからも『漢点字』の資料を備えていただけるといってお話もいただいております。また、市の社会福祉協議会でも、ボランティア活動への支援として、『漢点字』を打ち出すための点字プリンターを置いて下さることもなりました。

編 素晴らしいことですね。

岡 素晴らしいことです。図書館の皆さまにも、社協の皆さまにも、心から御礼申し上げます。さらに、これらのことは、会員の皆さまのお力の賜と深く感謝申し上げます。皆さまのご活躍が、社会的な認識に繋がったものと思います。

編 では、将来の課題をどのように考えておられますか？

岡 確かに『漢点字』の現状は、まだ「黎明」と言わざるを得ないものと思います。しかし、視覚障害

者も、もつと読書に対して食欲であつてもよいのではないかと思うのです。

読書に食欲に、ですか？

古い考えかもしれませんが、知識、教養が、その人物の厚みをつくる、というのは今でも有効だと思つております。視覚障害者も高学歴化が進んでおります。そのことは、これから求められて来ると思つていてよいのではないのでしょうか。

ニーズの開拓が急務ですね。

岡 編

先年亡くなりました作家の島尾敏雄氏が、奄美の図書館長をおつとめのころ、「図書館荒らしが図書館を育てる」ということをお書きでした。おそらくご自身の若いころを憶い出しながら書かれたものだと思います。視覚障害者にもそれは当てはまると思います。自らニーズの質を磨いて読書の質を高めて行こうとする試みが、どうやら求められているのではないかと思つております。そして、視覚障害者が読書を求めるとき、ボランティアの皆さまのお力なしには適わないことをよく心に記して、何時でも自らのニーズに関心を持つていなければならぬことを、よく心得ていなければなりません。

編
ありがとうございます。

『読書に食欲に…』

インタビュアーの時、この言葉を聞いてドキッとさせられた。

果たして自分はどの程度、『読書』と言える書物を読んできたであろうか？

小学校三年生の頃、両親から市立図書館の利用法を教わつてから、図書館をフルに利用し本を読んできた。そのうち、年相応の書物の中にめぼしい本が無くなり、難しい本を読むことになる。よほどのことが無い限り、一回読んで終わりになってしまう。つまりは、今まで沢山の本を読んできて、理解されずにいる本があまりにも多いということだ。

そのように考えるとき、読書と言える本はほんの一握りしか残らなくなってしまう。

社会に出てからは「通勤時間」イコール「読書時間」であるので、途中で本を閉じても支障のない軽い本しか読まなくなりました。

世の中には数え切れない程の本が流通している。

“残りの人生でどの位の本が読めるのか”
そう考えたとき、にわかには焦りが生じてきた。

今からでも遅くはない、私も読書に食欲に読む本を厳選していきたい。うかうかしてはられない。

宗助 悦子

漢字は“部首”と呼ばれるパーツを組み合わせて構成されています。その部首を点の符号で表わそうというのがこの漢点字です。ここに挙げた漢点字は、それぞれ一つの文字を表わしますが、またこれらは部首でもあるのです。

糸へん	言べん	木へん
田づくり	人べん	さんずい
しんによう	目のつくり	月のつくり
日へん	口へん	十

というように、漢字のパーツとして使われます。

つぎに、ここに挙げた漢点字符号を使って、別の文字をつくってみましょう。クイズです。

- ① 糸 田 ② 言 十 ③ 木 目 ④ 言 月 ⑤ 木 十
 ⑥ 田 日 ⑦ 言 明 ⑧ 木 史 ⑨ 言 有

答は以下のとおりです。

- ①糸田 ②言十 ③木目 ④言月 ⑤休
 ⑥辻 ⑦明 ⑧史 ⑨有

如何ですか？お分かりになりましたか？

漢字の部首はまだまだ沢山あります。それらを点の符号にするのはたいへん難しいことでした。考案者の川上泰一先生のご苦心が偲べれます。

漢点字ってどんな字？

前号では点字のあらましをお話ししました。従来の点字には漢字がないばかりか、ひらがなとカタカナの区別もないことをご紹介しました。

今回は『漢点字』についてお話します。

従来の点字は六つの点〈⠠⠠〉の組み合わせで構成されています。それに対して漢点字は、八つの点〈⠠⠠⠠〉の組み合わせでできています。その中の上の二つの点〈⠠⠠〉は、そのマスが漢字であることを表わします。

漢点字は、1マス〈⠠〉、2マス〈⠠⠠〉、3マス〈⠠⠠⠠〉のように、点の組み合わせだけではなく、マスとマスの組み合わせからもできています。そして漢点字の最初と最後のマスの上に点を付けることで、かなの点字と区別する約束になっています。

日本語の表記法である漢字かなまじり文を書き表わすには、漢点字で漢字を表わし、従来の点字でかなを表わします。その漢字であることを示す点を「始点（0の点）」、「終点（7の点）」と呼ぶことにしました。従って、実際の漢点字は従来の点字とおなじように、下の六つの点の組み合わせとマスの組み合わせで表わされているのです。

それでは漢点字と漢字はどのようなつながりを持っているのでしょうか。

例を挙げますと、「糸、言、木、田、人、水、進、目、月、日、口、十」は1マスで表わされる漢点字です。

漢点字ではそれぞれ、

糸	言	木	田	人	水
進	目	月	日	口	十

となります。

1マスで表わされる漢点字は他にも沢山あります。全部で57個の漢字が1マスで表わされます。

紫陽花の末一色となりけり

紫陽花の末一色となりけり

小林一茶

小林一茶

五月雨をあつめて早し最上川

五月雨をあつめて早し最上川

松尾芭蕉

松尾芭蕉



編集後記

会員諸氏の協力の下、無事第二号発行の運びとなりました。ご協力に感謝いたします。

創刊号発行より、当会にとつて、大きな進展が二つありました。一つは、漢点字版『漢字源』を蔵書として受け入れて下さった横浜市中央図書館サービスクール長及び係長との話し合いを5月に行い、今後の漢点字書の導入を含め相互の理解を深める為、継続して話し合いを持つことになりました。もう一つは、横浜市社会福祉協議会ボランティアセンターより、この度、漢点字専用のプリンターを設置していただけることになりました。6月中には使用できるようになると思います。

ご配慮頂きました、横浜市中央図書館並びに横浜市社会福祉協議会にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

今回の発行は八月十五日、テーマは「心に残った本」です。ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

TEL・FAX 045 (261) 1723

宗助悦子

先号ではEIBRKシステムのコンピュータへの導入(インストール)について述べました。今回はシステムの各種条件の設定と、ファンクションキーの使い方について説明します。

1. システムの条件設定と利用方法

このプログラムは、内部でMS-DOSのコマンドを利用しています。そのために、DOSのコマンドがうまく利用できない環境では、エラーが出てしまいます。編集画面で、ファンクションキーf.3に割り付けられている「エディタ」は、DOSのコマンド「**SEDIT**」と、EIBRKシステムに付属しているエディタの「**JX**」が使えます。**SEDIT**は、DOSのバージョン5.00以上でのみ利用可能です。バージョン3.0や3.3では利用できません。バージョンが5.00以上であっても、このコマンドがインストールされていないなかったり、せっかくインストールされていても、**PATH**が通じていなかったりする(DOSのコマンドが、例えば **A:¥DOS** というサブディレクトリにあって、**AUTOEXEC.BAT** 中の **PATH=A:¥;...** という記述の中に **A:¥DOS** が含まれていないような場合) と利用できません。

さらにこのプログラムは、読み込むべきテキストファイルの一覧を、ファイルの作成次期の新しいものから表示していますが、そのために **SORT** というDOSのコマンドを利用しています。これも **SEDIT** と同様にこのコマンドが利用できる環境になければなりません。もし、プログラムを立ち上げたとき、「コマンドまたはファイル名が違います」というメッセージが出て終わってしまったときは、EIBRKシステムのあるディレクトリの中の **EIBRK.INI** というファイルの17行目に何も書いてない場合は「**NON-SORT**」(小文字でもよい)という文字を書き加えて下さい。また、ここに別の文字がある場合は、それを削除して、「**NON-SORT**」に書き換えます。この場合、ファイルの最後が17行目でない場合は、必ず空の行を挿入して、正確に17行目に指定の文字が入るようにします。

また**SEDIT**はあまり大きなファイルは扱えません。**JX**はこのような制限なく使えます。どちらのエディタを使うかは、f.9の「オプション」で選択します。**JX**エディタは、かなり高度なエディタなので、利用できるコマンドが複雑です。これらのコマンドの使い方については、**JX**のマニュアルである**JX.DOC**をご覧ください。

このようなエディタを利用すると、変換後にもとのテキストファイルを訂正するのにとても便利です。すなわち、編集画面で、f.3を押すと、直ちにテキストファイルの編集画面になりますから、必要な訂正・加筆を行って、エディタを終了させると、もとの点字の画面に戻りますから、メニューの2で再変換をします。そうすれば、いちいち一太郎に戻らなくてもすみます。ただし、この方法の欠点は、一太郎の外字が利用できないことで、点字を外字コードで入力することができません。

点字の直接入力には、通常一太郎(Version 4)の外字を利用します。Windows版の一太郎でも、外字ファイルが適正に登録されていれば、その外字が利用できます。さらに、Windowsの場合には、外字ファイルがWindows共通のファイルとして登録されていると、一太郎以外のエディタでも同じように点字の入力・表示ができます。

MS-DOSの一太郎以外のエディタやワープロ専用機では、この外字ファイルが利用できないので、直接点字を入力するには、半角の0~Fで表す点字記号(16進表記)を使います。この点字記号の表し方は、EIBRKの画面で下の方に表示されているものです。1つの16進数で8点字の半分だけ表しますから、これを2つ組み合わせて1マスの点字を表示します。この場合、点字コード以外の数字やアルファベットは必ず全角で入力して下さい。そうしないと、点字コードでないものが点字になってしまうことがあります。また、入力時の点字コードがいずれであっても、変換後のテキスト行の表示では、点字コードは16進表示になります。

以上いずれの場合も、その内部で扱っている点字コードがそれぞれ異なるので、変換の際に点字コードの種類を選択しなければなりません。これも上記の「オプション」で指定して下さい。

2. ファンクションキーの使い方

(1)ファイル選択画面のファンクションキー

f.1~f.3(パス1~パス3) :

読み込むべきテキストファイルのパス(ドライブ+サブディレクトリ)を選択します。最初はf.1で指定されたパスのファイルを表示します。ここにフロッピーのドライブを指定したときは、そこにディスクが入っていないと、エラーになりますので、ご注意下さい。

f.6(ドライブ) :

f.1～f.3に登録されていないパスを臨時に指定するときに使います。

f.7(ワイルドカード) :

ファイル名の一部を*で省略して(例えば、「T*」と指定すると、頭にTがつくファイル名のみが表示されます)、指定した文字を含むファイル名のみを表示するようにします。ファイル数が多いときに便利です。

f.9(オプション) :

入出力パス、バックアップパス、プリンタ機種、1行文字数、1ページ行数、f.3キーで選ぶエディタの種類、直接点字入力する場合の外字コードの種類、印刷する場合のRS232CポートNo.ボーレート等を選択します。

(2)編集画面のファンクションキー

f.1(文字入力) :

簡単な文字列(画面の1行分まで)の挿入ができます。ここでは、原則として文字は全角で入力して下さい。そのためにはCTRL+XFERで漢字入力モードにします。一連の文字入力が終わったら、リターンキーを押すと、漢字変換されて表示されます。片仮名や英字は、半角のままでも入力することも出来ますが、正常に変換されないこともあるので、できるだけ全角入力して下さい。また、片仮名を入力したとき、片仮名符が自動的に挿入されません。この場合は、再変換すれば正常に片仮名符が挿入されます。

点字を直接入力するには、半角の16進コードで入れます。これは、前述のオプションで選択した外字コードの種類に関係なく、常に16進コードにします。

f.2(復活) :

編集画面では、DELキーによってカーソル位置の文字を削除することが出来ます。ここで削除された文字は、複数個でもそのまま記憶されており、このf.2キーを押すと、そのカーソル位置に1個ずつ復活挿入されます。従って、この機能を利用すれば、文字列を別の位置に移動することも出来ます。実際には、文字列の移動などは次に示すエディタを使ったほうが確実にやり易いでしょう。

f. 3(エディタ) :

前項で説明したエディタを選ぶものです。オプションで選んだエディタが、自動的に現在表示されているテキストファイルを読み込んで立ち上がります。

作業が終了したら、**SEEDIT**の場合はf.10を、**JX**の場合は**ESC**を押してから**Q**を押します。

f. 4(テキストSave) :

これは編集画面で修正した結果をテキストファイルに戻すもので、この場合に**SAVE**すべきファイル名をきいてきます。ここでファイル名をもとのテキストファイルの名前と別のものにすれば、もとのファイルはそのままにして、修正した結果を新しいテキストファイルに残すことができます。**SAVE**が終了すると、「再変換をしますか」ときいてきます。ここで再変換をすると、修正したファイルが、再変換しても本来の姿になっているかどうかの確認が出来ます。

f. 5(ジャンプ) :

ここで指定した行数の所へ表示の先頭が移動します。ここで、**SHIFT**キーを押しながらf.5を押すと、ジャンプすべきページが指定できます。また、**T**を入力するとファイルの先頭に、**B**を入力するとファイルの最終行に移動します。

f. 6(Page行) :

点字印刷の時に一番上のページ行に表示する点字に相当する文(文字列)を入力するものです。各ページ毎にその文字列を入力します。

f. 7(前Page)、f. 8(次Page) :

ページ単位で画面を切り替えます。

f. 9(オプション) :

前述のオプションと同じです。